

SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CSR Report 2012

新日本空調 CSRレポート2012





空気・信頼そして未来、見えないものを



■ 企業理念

新日本空調株式会社(以下「新日本空調」と称す)は、2008年1月に「企業理念」を制定しました。

1. 空気・水・熱に関する技術の研究と開発を通して、地球環境に配慮した環境設備企業であり続けます。
2. 顧客・株主・職員・協力会社をはじめ、すべての人々との信頼関係を大切にします。
3. 「良き企業市民」として、社会の発展に貢献します。
4. 公正、透明、自由な競争を基本に、開かれた企業活動を行います。

■ 経営の基本方針

新日本空調グループは、「豊かな環境の創造」「人々との信頼関係の尊重」「社会への貢献」を経営の基本として掲げ、活動しています。

■ 企業行動憲章

新日本空調グループは、ステークホルダー(顧客・株主・職員・協力会社等)に対するCSR(Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任)への取り組み姿勢を明確に打ち出し、以下のとおり企業行動憲章を制定しています。

1. 空気を中核とする熱・水技術の研究と開発に努め、環境創造分野に新たな価値を創り出し、社会的に信頼される技術とサービスを提供します。
2. 公正、透明、自由な競争を基本に、開かれた企業づくりに努めます。
3. 株主はもとより、社会とのコミュニケーションを緊密に行い、積極的かつ公正な企業経営を目指します。
4. 環境に調和する技術の研究・開発を通して、地球規模の環境保全に貢献します。
5. 「良き企業市民」として、社会貢献活動を行います。
6. 労使相互信頼を基本に、職員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、希望に溢れた企業風土を創ります。
7. 反社会的勢力との関係遮断を断固たる決意で臨み、順法意識の確立と健全な企業風土を醸成します。
8. 海外においては、国際ルールや現地の法律順守はもとより、その文化や慣習を尊重し、その発展に貢献します。
9. 本行動憲章の役割を深く認識し、関係者に周知、徹底するとともに、当社グループ内の取り組み体制を整備し、企業倫理の徹底を図ります。
10. 緊急事態発生時の社内即応体制を確立するとともに、社内外への迅速な情報公開と説明責任を明確にします。

大切にします。



■ 会社概要

商号	新日本空調株式会社 Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd
設立	1969年10月1日
本社	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル
資本金	51億5,860万円(2012年3月31日現在)
事業内容	空調調和、冷暖房、換気、給排水、衛生設備等の設計、監理ならびに工事請負
従業員数	連結1,293名、単体980名(有価証券報告書ベース、2012年3月31日現在)
主な事業所 [国内]	首都圏事業本部、都市施設事業部、リニューアル事業部、産業施設事業部、ビジュアルソリューション事業部、原子力事業部、北海道支店、東北支店、関東支店、横浜支店、名古屋支店、大阪支店、中国支店、九州支店、技術開発研究所
[海外拠点]	上海、スリランカ、シンガポール
連結子会社	新日空サービス株式会社、新日本空調工程(上海)有限公司 SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITED SHIN NIPPON AIRTECH (SINGAPORE) PTE. LTD
株式の状況	発行可能な株式総数 84,252,100株 発行済み株式の総数 25,282,225株 株主数 6,530名(2012年3月31日現在)

■ 編集方針

本レポートは、新日本空調グループにおけるCSR活動の取り組み状況について、ステークホルダーに対する説明責任を果たすことを主目的として、CSRに対する新日本空調の考え方、2011年度の取り組み、実績等をCSR・広報委員会にて企画・編集したものです。
本レポートが、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーション促進の一助となることを願っております。

本レポートの 対象範囲

1. 対象期間
本レポートに掲載の活動内容、データ集計の対象期間は2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)ですが、一部2012年度の内容も含まれます。
2. 対象組織
新日本空調の国内事業所、新日空サービス株式会社および、3つの海外現地法人におけるCSR活動を対象としています。
3. 対象読者
新日本空調の企業活動を支援いただいているステークホルダー(顧客、株主、職員および家族、協力会社等)の皆様、特に株主・投資家および取引先企業の皆様への報告に力点を置いています。

お問い合わせ先

新日本空調株式会社 経営企画本部
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル
TEL : 03-3639-2701 FAX : 03-3639-2734

*新日本空調の企業情報につきましては、ホームページ(<http://www.snk.co.jp>)をご覧ください。
*アンケート用紙を添付しています。次回レポート作成時の参考とさせていただきますので、本レポートについて皆様の率直なご意見、アドバイスをお寄せくださいますようお願い申し上げます。

次回発行予定

次回は2013年9月の発行を予定しています。



Contents

企業理念、経営の基本方針、企業行動憲章	02
会社概要、編集方針、目次	03
トップコミットメント	04-05
東日本大震災に対する取り組み	06-07



基本姿勢と透明性

基本姿勢と透明性の高い企業活動 CSRガイドライン、ロードマップ	08-09
コーポレートガバナンス	10
コンプライアンスの推進・徹底 コンプライアンス	11-12
内部統制システムの対応	13
空調の解説 身近な空調のはなし	14-15



安全・品質・環境マネジメント

安全・品質・環境マネジメント マネジメントシステムの概要	16
安全活動	17-18
品質活動	19
環境活動	20-21
環境配慮型物件の施工実績紹介	22-23
環境技術紹介	24-25



ステークホルダーとの対話

人権尊重・人材育成 人権・制度・人材育成・職場環境	26-27
社会貢献活動 社会貢献活動	28-31
事業部紹介 東北支店	32-33
社外ステークホルダーインタビュー 株式会社明治座 三田社長	34-35



代表取締役社長

高橋 薫

高橋 薫

■ Top Commitment

「ずいしょさくしゅ随処作主の一丸体制」で、
「前線第一主義」をさらに推し進め、
社会貢献と企業価値の向上を目指します。

「新日空 中期経営計画」(2011～2013年度)の2年目である今年も、
CSR活動をさらに推し進め、透明性の高い企業活動を展開することにより、
当社グループの企業価値の向上に努めます。

はじめに

昭和5年(西暦1930年)に当社の前身である「東洋キヤリア工業」が誕生しましたが、満州鉄道特急アジア号での“世界初”全列車空調や、“日本初”の原子炉空調を手掛ける等、数々の偉業を残してまいりました。

このチャレンジ精神は、東洋キヤリアの誕生以来、80年以上の歴史を刻む今日に至っても、脈々と受け継がれております。

空調のエンジニアリング会社である当社を支えるのは、技術力ですが、その技術力を活かすのは「人」です。従って、社員一人ひとりの「人間力」をいかに高めるかが重要であると考えます。当社では、「人間力」を持つ人とは、「なくてはならない人」と定義付けております。つまり、専門性、人間性、どちらか一つでも必要な人ですが、二つが合わさって初めて「なくてはならない人」になる。そんな社員を増やしていくことが人材育成の重要なテーマであり、その総和が「なくてはならない会社」としての基軸をなすものと考えております。そのような人材の集合体である組

織活動において、発揮すべきが「ずいしょさくしゅ随処作主の一丸体制」です。

この「ずいしょさくしゅ随処作主」とは、いかなる局面においても、当事者意識を持って目の前の課題に取り組むことができれば、おのずと良い結果につながるという意味です。国際情勢や国内外の事象一つを取っても、世の中は急激に変化しています。当社としてもこの変化を機敏に捉え、いち早く対応することが最も求められていることと考えています。

2011年度の総括

2011年度は、依然として熾烈な企業間競争が続いている中で、採算性と事業成長性を見据えた戦略受注にも取り組んだ結果、受注工事高は851億2千5百万円(前期比10.6%増)、完成工事高は796億4千万円(前期比7.1%増)となりました。

利益面におきましては、グループ全体での原価低減による利益創出と固定費の削減努力の結果、完成工事総利益は74億6百万円(前期比5.0%増)、営業利益は19億1千5百万円(前期比154.3%増)、経常利益は21億8百万円(前期比119.1%増)となりました。

2012年度経営計画

「新日空 中期経営計画」

(2011～2013年度)

基本方針

社会貢献と企業価値の向上

当社経営理念に掲げる“空気を中核とする熱・水技術の研究と開発に努め、環境創造分野に新たな価値を作り出し、社会的に信頼される企業”の実現を目指す。

2012年度の経営計画達成に向け、継続して次の三つの課題に取り組みます。

1. 顧客ニーズに応える全社一丸体制の推進

- ① ワンストップソリューション手法の全社展開
- ② スマートファシリティエンジニアリングによる水平方向のワンストップ強化

2. 中核独自分野での事業推進力の向上と新成長分野への積極投資

- ① アジア拠点での事業深耕と事業遂行力の向上
- ② 原子力分野における事業推進
- ③ ビジュアルソリューションの事業深耕
- ④ 技術の維持と高度化に向けた積極投資

3. 経営資源の最適活用とコーポレートガバナンスの追求

- ① 人材の育成と活用
- ② コーポレートガバナンスの追求
- ③ 経営資源の最適活用

定量計画(連結)

(百万円)

	2011年度計画	2011年度実績	2012年度計画	2013年度計画
受注高	85,000	85,125	87,000	90,000
完工高	80,000	79,640	85,000	90,000
当期利益	700	811	1,100	1,600

また、特別利益として6千万円、特別損失については2億2百万円を計上した結果、当期純利益は8億1千1百万円(前期比24.3%増)となりました。

前年度との比較において、受注高、完工高、当期純利益の増加に加え、繰越高も14.4%の増加となり、社内目標としておりました「増の四冠」を達成しました。景気低迷が続いている中、成長性を維持するための受注高、将来に向けての繰越高、収益規模としての完工高を増やし、最終的に利益を確保することが事業運営の基本と考え、増の四冠を目標とした次第です。

2012年度以降の経営計画

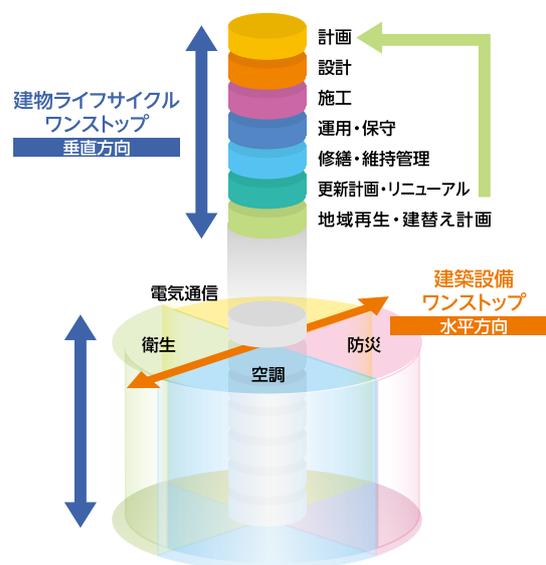
2012年度の事業環境は、製造業の海外シフトや、原油高による原材料価格の上昇、電力不足による生産調整も懸念され、依然として、国内市場では、厳しい受注環境が続くものと思われ。一方で、震災復興事業や防災インフラの整備増強はもちろんのこと、安定的な電力・エネルギーソースの確保や、節電への取り組み、海外への製造拠点シフト等、さまざまな対応策も活性化されるものと思われ。

そのような社会環境下、2012年度の経営計画は、「顧客

当社の2方向のワンストップソリューション

- ① 「垂直方向」: 建物のライフサイクルの中で、計画、設計、施工、引渡し、保守保全、改修もしくは更新といった流れのワンストップ。
- ② 「水平方向」: 空調設備を核としつつも、衛生、電気通信、防災といった建築設備全般にわたる水平方向のワンストップ。

「垂直」「水平」2方向のどのステップにおいても、当社のプレゼンスをワンストップで発揮し、お客様とこれまで通り、対面し続けることで、ご期待に応えるさまざまなソリューションを提供することができるものと確信しております。



ニーズに応える全社一丸体制の推進」、「中核独自分野での事業推進力の向上と新成長分野への積極投資」、「経営資源の最適活用とコーポレートガバナンスの追求」の三つを基本課題として継続して掲げ、社会貢献と企業価値の向上を目指してまいります。

定量計画としましては、受注計画は、初年度である2011年度に850億円を達成することができましたので、今後においても、中期経営計画通りに2012年度は870億円、最終年度には900億円を目指します。完工計画は、繰越高が継続して増加していることもあり、ここでも中期経営計画通り、2012年度は850億円と致しました。最終年度での900億円も、変更ございません。損益計画は、先程の完工高2012年度850億円から最終年度900億円という中期経営計画に掲げた事業規模の中で、2012年度当期利益として、11億円、最終年度には16億円を目指す計画です。

また、株主の皆様様に安定的かつ継続的に成果の還元を行うことを経営の重要課題としており、利益配当につきましては、年間15円を基本に業績に応じた特別配当を実施していく方針です。



復興に向けて

東日本大震災に対する

新日本空調グループは、東日本大震災直後から本社を中心として関係各所、各事業部、関連会社並びに協力会社と連携し、「チームSNK」として一体となって対応しました。

本社 災害対策本部を立ち上げ、被災地域の事業部門を統括

●事業継続計画(BCP)に基づく初期対応

3月11日の地震発生後直ちに、東京本社内に社長を本部長とする災害対策本部を設置し、対応体制を構築しました。職員及びその家族の安否確認や、会社施設、施工中の現場の被災状況の情報収集を実施し、同時にお客様の被災状況を確認しました。



震災直後の災害対策本部



側溝の泥・がれき撤去作業

●被災者への義援金・支援物資

広範囲にわたる被災地・被災者に対し、日本赤十字社を通じて義援金1000万円の寄付を実施しました。また、社内で義援金の呼びかけを行い、全社で約150万円が集まり、同じく日本赤十字社等へ送金しました。一方、原子力事業部、大阪支店、名古屋支店と連携し支援物資(飲料水、ポリタンク、食料品等)を被災地の当社事業所及び現場作業所の方々に継続的に配送しました。

●被災地へのボランティア活動

東京大学先端科学技術研究センター橋本研究室とエコグローバル研究所が開発した光触媒シートを用い当社が製品開発した「光触媒脱臭フィルタ」を被災者避難所の室内臭気環境が少しでも改善するように提供しました。また、現地の社会福祉協議会を通じて、道路側溝の泥・がれきの撤去作業などのボランティア活動にも参加しました。

東北支店 被災地域の事業部の対応

東日本大震災は東北地方全体に甚大な被害をもたらしました。

3月11日、地震は地響きと共に突然襲ってきました。過去に経験した事のない大きな揺れは数々の建物施設を破壊、暗黒の津波は街を襲い、多くの人命と財産を奪い去りました。

東北支店は宮城県仙台市内にあり、地震発生直後は電気が遮断し電話は不通となり、職員や家族の安否確認に困窮を極めました。被災以後数ヶ月間は余震とあらゆる生活物資の不足から、耐乏生活が続きました。このような状況のなか、震災翌日より、昼夜を問わず被災したお客様からの問合せに、全職員「一致団結」、不眠不休で対応を続けました。北は「青森」から南は「福島」まで、直線距離にして約500kmの広範囲にわたるものでした。2011年度に対応した件数は191件に及びました。

全国から心温まる「東北支店支援」をたくさんいただき、ほんとうに有難うございました。

2012年度から本格的な『震災復興計画』がスタートしており、東北支店は「復興に貢献する」をスローガンに「前を向き、ともに前へ」進みます。



3.11 震災直後の支店内の状況(棚からすべてのファイルが落下)

3.14 職員定例ミーティング(復旧対応への業務確認・指示)



取り組み

2011年3月11日、14時46分。

日本における観測史上最大規模、マグニチュード(Mw)9.0、震度7の大地震が、北は岩手県沖から南は茨城県沖までの広範囲で発生しました。2012年5月9日現在で死者・行方不明者は約1万9千人にのぼりました。東日本大震災によって被害を受けた方々に、心よりお見舞い申し上げます。そして、被災地が一日でも早く復興することをお祈りいたします。

原子力事業部 原子力発電所の安定化と安心した環境づくりに向けた対応

原子力事業部は震災後の4月、福島県いわき市に前線事務所を確立し、福島第一・福島第二原子力発電所の安定化に向け、迅速に対応する体制を整備しました。

福島第一原子力発電所では、原子炉の安定的な冷温停止状態の達成に向け、滞留水回収処理設備による放射性物質の除去や放射性物質の放出低減に向けた空気浄化、また作業員の休憩施設(コンテナハウスを利用した冷暖房完備の休憩所)設置等に取り組み、一方福島第二原子力発電所においては、機能回復のため空調設備の点検・再起動や、津波・地震で被災した設備の復旧等に取り組んでおります。

また原子力発電所以外でも、放射性物質による汚染の可能性がある地域の公共施設を中心に、外気フィルタの交換や空調機等の除染作業を支援し、地域の皆様が安心して施設を利用できる環境づくりに貢献しています。

コンテナ型休憩所(外観)



コンテナ型休憩所(内部)

関東支店 地域に密着したきめ細かい対応を継続

関東支店は千葉県千葉市にあり、管轄している5県のうち千葉、茨城、栃木の3県で大きな被害がありました。通信網が麻痺している状況のなか、衛星電話により迅速に本社への第一報や営業所への現場状況確認指示を行うことができました。現場においては、お客様からの緊急要請に対して、各々の責任で応急処置対応を開始していました。現場から定期的に状況報告を受ける体制をとり、支店の緊急対策本部に情報を集約し、人員や材料手配などの応援要請に対してスピーディーな対応を心がけました。既存のお客様へは、当社から積極的に連絡をとり、状況把握のうえで最低限の応急処置を行いました。その結果、短期間に限られた人員で多くの緊急対応をこなすことができました。

お客様の被災状況は液状化による給排水管の破断、スプリンクラー配管からの漏水、ダク

トなどの崩落など大小さまざまでしたが、各職員が昼夜を問わず「お客様第一」で設備屋としてのプライドを持って取り組んだ経験は、今後の大きな糧になると思います。

復興への第一歩を踏み出したばかりですが、まだまだ余震も続き、近い将来首都圏直下型地震も危惧されるなか、設備の耐久性向上や、災害時のビル機能維持に関する提案等、お客様へのBCP対応を強化します。



震災時の支店内状況
(書庫転倒)



震災時 支店内状況
(ロッカー転倒)

基本姿勢と 透明性

新日本空調グループは、
透明性の高い企業活動を展開することで
「企業価値の向上」を図っています。

新日本空調グループのCSR

新日本空調は、2007年11月にCSR委員会を発足して以来、CSR活動の課題や具体的な展開方法等について、同委員会にて繰り返し協議し、2012年4月に「CSR活動ロードマップ(中期実行計画)」を策定しました。

新日本空調グループは、ステークホルダー(顧客・株主・職員・協力会社等)の皆様から信頼される企業を目指し、経済・環境・社会の3側面でバランスの取れた経営を実践してまいります。

CSR活動ロードマップ(中期実行計画) 2012年4月策定

活動方針	活動内容
1 基本姿勢と透明性の高い企業活動	CSR活動推進の体制づくりとCSR活動の展開
	コーポレートガバナンス・内部統制の充実
	財務報告にかかわる内部統制の確立
2 コンプライアンス(法令順守)の推進・徹底	コンプライアンス意識の醸成
3 安全・品質・環境マネジメントの強化	安全・品質・環境マネジメントシステムの実施
	環境に配慮した研究開発への取り組み
	環境保全活動の推進
4 ステークホルダーとの対話 促進	CSRLレポートの継続的発行
	ステークホルダーとのコミュニケーション強化
	積極的な広報・IR活動の実施
5 人権尊重・人材育成の推進	協力会社と一体となった社会責任意識の共有化推進
	ワーク・ライフバランスを考慮した職場環境の改善と諸制度の制定
6 社会貢献活動の推進	地域に密着した社会貢献活動への取り組み
	日本全国・海外を対象とした社会貢献活動への取り組み

CSRガイドライン

1 基本姿勢と透明性の高い企業活動

「企業理念」「経営基本方針」の具現化を通じて、「社会的に信頼される企業」の実現を目指し、コーポレートガバナンス体制を強化するとともに、透明性の高い企業活動を展開します。

2 コンプライアンス（法令順守）の推進・徹底

全ての役職員が「企業行動憲章」を順守し、「話す勇氣と聴く姿勢」をスローガンに、高い倫理観と責任感をもって行動し、社会の発展に貢献します。

3 安全・品質・環境マネジメントの強化

信頼性の高い設備の供給によって「顧客満足度の向上」を図るべく、安全衛生・施工・品質・環境保全の管理体制を強化するとともに、「省エネ」と「快適性」を両立させる技術の研究・開発を推進し、室内環境と地球環境の改善に貢献します。

4 ステークホルダーとの対話促進

顧客、株主・投資家、職員、協力会社・取引先、行政、地域社会、マスメディア、アナリストなどとの対話・協働を実践し、双方向コミュニケーションに努めます。

5 人権尊重・人材育成の推進

人権を尊重し、雇用の多様化・人材育成に取り組むとともに、職員が健康で社会の一員として活躍できるよう、職場環境の改善に努めます。

6 社会貢献活動の推進

「良き企業市民」として、芸術文化、スポーツ、教育・福祉などの振興を継続的に支援します。
また、職員のボランティア活動への参加を支援します。

進捗状況 ☆:計画検討・継続 ○:完了 ○:実施中 △:未実施

進捗状況	2011年度の活動成果（主な取り組み）	2012年度の活動目標（主な取り組み）	2013年度以降の取り組み方針
○	・CSR委員会の開催 ・CSRの全社啓発活動を継続実施	・CSR・広報委員会の開催 ・CSRの全社啓発活動を継続実施	
○	・グループ会社を含めたコーポレートガバナンス・内部統制の充実 ・BCP(事業継続計画)に基づく体制の確立とBCP訓練の実施	・グループ会社を含めたコーポレートガバナンス・内部統制の充実 ・BCP(事業継続計画)の本格運用および全社BCP訓練の実施	・CSR・広報活動の全社展開を啓発 ・コーポレートガバナンス、内部統制の実効性の向上
○	・2011年度「内部統制報告書」を関東財務局に提出 ・会社統制、IT全般統制、決算・財務報告プロセス、その他業務プロセスに係わる内部統制評価の実施 ・内部統制委員会の開催／内部統制連絡協議会の継続実施 ・内部統制教育の継続実施	・2012年度「内部統制報告書」を関東財務局に提出 ・会社統制、IT全般統制、決算・財務報告プロセス、その他業務プロセスに係わる内部統制評価の実施 ・内部統制委員会の開催／内部統制連絡協議会の継続実施 ・内部統制教育の継続実施	
○	・コンプライアンス研修＆アンケートの継続実施 ・各部門の状況に応じたコンプライアンスの取り組み強化	・コンプライアンス研修＆アンケートの発展的改善 ・コンプライアンス意識のさらなる徹底	・コンプライアンス意識の向上と推進
○	・「現場の見える化」の定着 ・統合マネジメントシステムの確立	・「現場の見える化」の推進 ・統合マネジメントシステム(安全・品質・環境)の定着・推進	・「現場の見える化」の強化 ・統合マネジメントシステムを推進し、労働災害・品質事故・環境汚染“ゼロ”を目指す ・職員と協力会社が「丸」となった「チームSNK」活動の強化 ・更なる低炭素社会の実現に向けた活動の推進 ・資源循環並びに有効活用の実施
○	・ビジュアルソリューション事業部の設立 ・省エネ施工技術開発の推進	・熱源最適化システム開発 ・当社のZEB構築計画の推進	
○	・建設副産物削減の推進 ・CO ₂ 排出量削減の推進 ・フロン再資源化の推進 ・省エネ提案によるCO ₂ 削減の推進	・建設副産物削減の推進 ・CO ₂ 排出量削減の推進 ・生物多様性保全への取り組み	
○	・「CSRレポート2010」の評価と「CSRレポート2011」の発行	・「CSRレポート2011」の評価と「CSRレポート2012」の発行	
○	・顧客インタビューの実施 ・顧客向け技術セミナー実施 ・顧客・協力会社と一体となった「BCP」の推進(首都圏直下型地震を想定した訓練の実施)	・顧客インタビューの実施 ・顧客向け技術セミナー実施 ・顧客・協力会社と一体となった「BCP」の定着	・社外ステークホルダーへのインタビューの実施 ・ステークホルダーに対する幅広い情報開示及び対話の促進 ・積極的な企業情報開示と説明 ・技術の伝承及び水平展開の実施
○	・中期経営計画の発表 ・「会社紹介DVD」の改訂検討 ・迅速かつ適切な報道対応 ・積極的なニュースリリース発信、および取材対応 ・決算説明会の実施 ・誠実なIR(取材・投資家訪問)対応 ・事業化を視野に入れた当社保有技術のPR強化	・迅速かつ適切な報道対応 ・積極的なニュースリリース発信、および取材対応 ・決算説明会の実施 ・誠実なIR(取材・投資家訪問)対応 ・事業化・実用化に向けた当社独自技術のPR強化	
○	・安全衛生大会の開催 ・「SNK匠」認定制度の活用 ・「CD&Q活成会」の開催	・安全衛生大会の開催 ・「SNK匠」認定制度の活用推進 ・「CD&Q活成会」の活動継続	
○	・高齢化社会に対応する人事施策の実施 ・働き甲斐のある職場作りの推進	・柔軟性と多様性を持った人事施策の推進 ・働き甲斐のある職場作りの推進	・「人間力」豊かな人材を創出し、やりがいを持って業務に取り組める人事制度を整備、推進
○	・地域のクリーンアップ行事に参加 ・名橋「日本橋洗い」に参加 ・本社近郊の小学校に「写真ニュース」を提供 ・被災地の震災復旧ボランティア活動に参加	・地域行事(クリーンアップ行事など)に継続参加 ・本社近郊の小学校に「写真ニュース」を継続提供	・地域の各種行事への支援と積極的参加 ・学術・研究・教育活動への支援 ・芸術・文化・スポーツ等の振興支援 ・社員のボランティア活動支援
○	・三井広報委員会の活動に参加 ・「ふれあいトリオ」を協賛	・三井広報委員会の活動に継続参加 ・「ふれあいトリオ」を継続協賛	





コーポレートガバナンス

新日本空調グループは、顧客、株主、職員、協力会社等それぞれのステークホルダーに対し、企業価値を高めていくことを経営の重要課題の一つと認識し、経営環境の急激な変化に対応するため、迅速な意思決定ができる経営体制をとるとともに、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

コーポレートガバナンスの状況

(1) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

新日本空調グループは、“空気を中核とする熱・水技術の研究と開発に努め、環境創造分野に新たな価値を創り出し、社会的に信頼される技術とサービスを提供すること”を企業理念としています。

その実現に向け、顧客ニーズに応える全社一丸体制を推進すること、中核独自分野での事業推進力の向上や新成長分野への積極投資を行うこと、経営資源の最適活用とコーポレートガバナンスの追求を行うこと、を基本課題とした「新日空 中期経営計画」を2011年度よりスタートさせ、その実行計画に基づき、社会貢献と企業価値の向上を図っています。

(2) コーポレートガバナンスに関する施策の実施状況

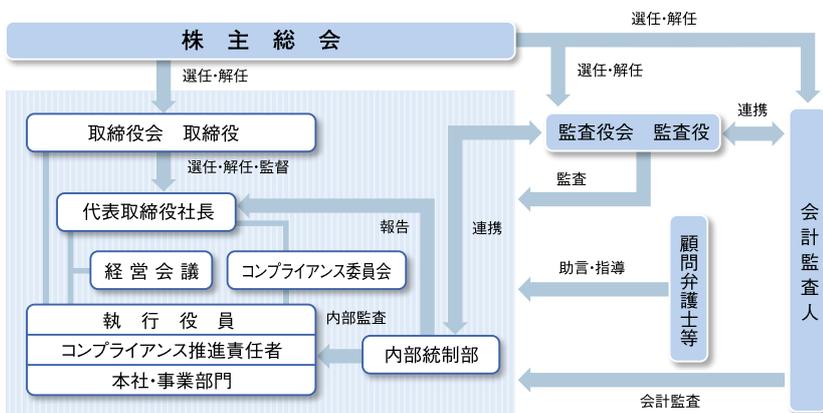
新日本空調は、執行役員制度を導入し、経営責任の明確化および業務執行の迅速化を図っております。取締役会は、取締役を実質的な討議を可能とする人数(8名)にとどめ、法令で定められた事項や経

営上の重要な事項を審議・決定するとともに、取締役の職務執行が効率性を含め適正に行われているかを監督しております。また、取締役会に諮るべき事項および重要な業務執行については、経営会議(メンバーは取締役全員および監査役1名)において協議し、迅速かつ適切な運営を図っています。

また監査役会は、3名の社外監査役を含む4名で構成され、各監査役は取締役会をはじめとする重要な会議に出席し、必要に応じて意見を述べるほか、監査役会が定めた監査の方針、業務の分担などに従い、取締役等に営業の報告を求め、重要な書類を閲覧し、また各部門や当社グループ会社へ往査のうえ業務および財産の状況を調査しており、公正かつ確に監査を実施しています。新日本空調グループの内部監査を行う内部統制部は7名で構成し、社長直轄としています。監査役と毎月の定例業務連絡会を含め、十分な連携を図りながら、新日本空調各部門および新日本空調グループ会社に対し、定期的に業務執行状況についての内部監査を実施し、経営方針に対する運営管理状況と諸基準に対する適合性を評価し、経営意思の浸透状況を社長に報告しています。

次に、新日本空調の会計監査については、有限責任監査法人トーマツより、独立の立場から会計監査を受けています。監査役と会計監査人は、日頃から監査方法等に関する意見交換を密に行っているほか、中間期および期末には会計監査人から監査役へ監査の総合的かつ詳細な報告を受け、連携を強めています。

＊コーポレートガバナンス体制図＊





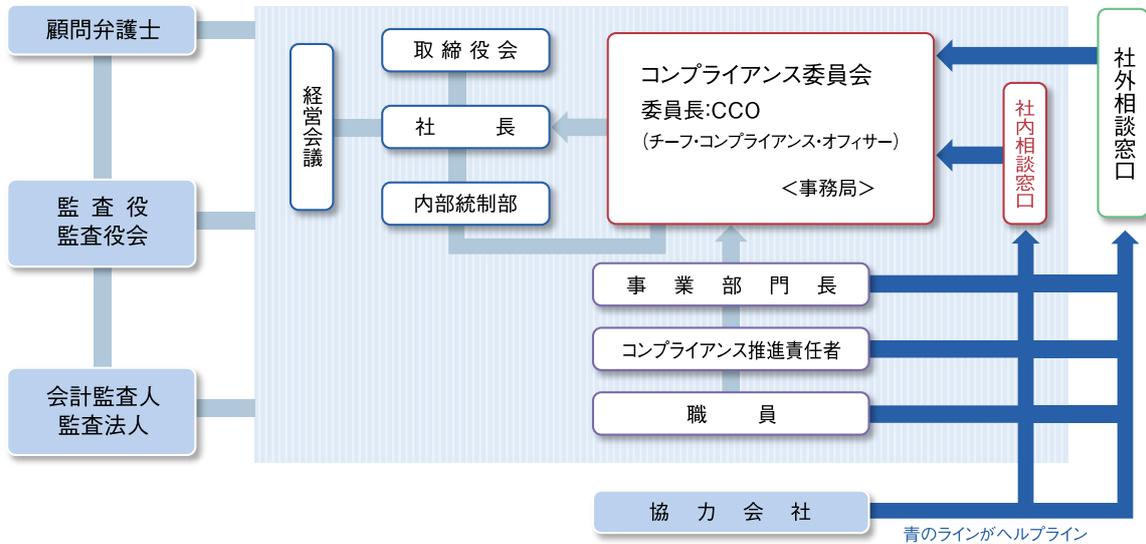
Basic stance and transparency

コンプライアンス

新日本空調グループは、コンプライアンスをCSRのベースと位置づけ、体制の強化に取り組んでいます。法令の順守だけでなく、高い倫理観と責任感をもって行動することが、業務を遂行していくうえでの最重要課題のひとつであると考えています。

コンプライアンス徹底の取組み

コンプライアンスとヘルプライン



- 2003年 3月 企業行動憲章を制定 (2008年1月第3版発行)
- 2005年 2月 ヘルプラインを設置
- 2006年 1月 第1回コンプライアンス・アンケート実施 (以後、毎年実施)
- 2006年 2月 社長宣言「当グループはコンプライアンスに違反した仕事のやり方や利益の追求はしない」
- 2007年 12月 協力会社をヘルプラインの利用対象者とする
- 2008年 1月 「こんなときどうする? 社員行動基準 コンプライアンス・ケースブック」を発行
- 2008年 1月 企業理念制定
- 2008年 4月 コンプライアンス宣言書を全役職員が署名
「我々はコンプライアンスに違反した仕事のやり方や利益の追求はしない」





コンプライアンス



【コンプライアンスアンケート(意識調査)】

コンプライアンス意識の浸透を確認するために、毎年アンケート(意識調査)を実施し、その結果を施策の立案・実行にフィードバックしています。7回目となる2011年度は、グループ全体の1,272名を対象に実施し、95.5%の回答を得ました。

全体的に、当社グループのコンプライアンスの取組みや個人の意識は年々浸透、向上してきましたが、これに伴い、各自がコンプライアンスをより掘り下げて取り組もうとする当事者意識も強まり、改善姿勢、要望も顕著に表れています。当社グループとしては、アンケートの多面的な分析をし、コンプライアンス意識の向上や浸透に留まらず、問題の発生防止や職場環境改善に努めています。

【コンプライアンス教育】

役職員のコンプライアンス意識の向上と維持に向け、またコンプライアンス実践に必要な知識や情報の周知を図るために、毎年コンプライアンス教育を実施しています。対象は、役員、職員はもちろんのこと、契約社員、派遣社員および協力会社の役職員など、当社グループの仕事に係る全ての人たちです。2010年度からは本社主催のコンプライアンス教育に加え、各事業部門に設置しているコンプライアンス推進責任者主導による意見交換および討議を、部門ごとに継続実施しています。ここでは、問題となる事例を中心に解説を行い、それを主な題材として意見交換を行いました。集合教育では得ることが困難な、部門ごとに異なる課題が浮き彫りになり、今後の取り組みの参考になるものとなりました。また、協力会社に対しては、不正防止に向けた啓発活動の一環として、当社のコンプライアンスに対する考え方、姿勢やヘルプライン制度の周知を目的とした研修会を行いました。



コンプライアンス上、問題となる事例をまとめた小冊子「コンプライアンス・ケースブック」

内部相談制度

ヘルプライン

コンプライアンスの本質は、企業行動憲章や価値観を反映した風通しの良い職場環境をつくり、円滑なコミュニケーションを通じて問題の発生を未然に防止することにあると考えております。万が一問題が発生した場合は、直ちに上司または関係者に報告、相談し、迅速に適切な処置をする必要があります。

新日本空調グループでは、コンプライアンスに関する相談、法令違反の報告先として、通常の組織上の報告ルートに加え、社内(総務部法務課)および社外(男女1名ずつの弁護士)にそれぞれ専用相談窓口(ヘルプライン)を設置しております。役職員はコンプライアンスに違反する行為を発見し、または実施する恐れがある場合、ヘルプラインに報告、相談することができるとしており、公益通報者保護法に則って、相談者は、職務上のいかなる場合であっても、その相談を理由に不利益な取扱いを受けないことを明確に規定し、匿名での受付や本人の同意がない限り秘匿されること等安心して報告、相談できる仕組みを整備しています。

なお、この内部相談制度(ヘルプライン)は新日本空調の協力会社にも利用いただけるようにし、社会からの信頼を失う恐れのある行為の早期把握と未然防止にご協力いただいております。



Basic stance and transparency

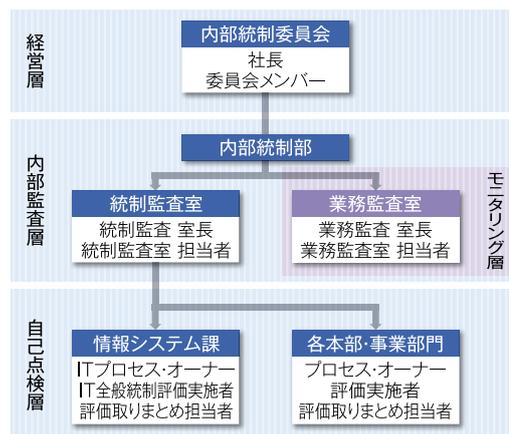
内部統制システムの対応

内部統制システムの基本方針

当社は、会社法に基づく「業務の適正を確保するために必要な体制」の基本方針を取締役会で定め、職務の執行が法令・定款に適合するための、適切かつ効率的な体制の確保を図っています。

- 1 取締役および使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制
- 2 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
- 3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- 4 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- 5 当社企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 6 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制および当該使用人の取締役からの独立性に関する体制
- 7 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
- 8 その他監査役が実効的に行われることを確保するための体制
- 9 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況

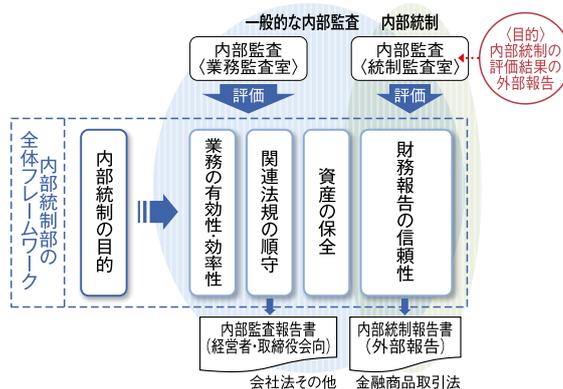
内部統制運用体制



財務報告に係る内部統制

金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」の有効性については、社長を委員長とする内部統制委員会を設置し、財務報告の重要な事項に虚偽記載が発生しないための社内体制を構築しています。2011年度は、実施基準の改定に伴い、より効率的な運用方法を実施すべく評価範囲の見直しを行いました。見直し後の整備・運用状況は、内部統制部による評価の結果、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しており、監査法人の監査結果においても、その有効性が確認されています。

内部統制と一般的な内部監査の関係



2012年度内部統制運用計画

当社は内部統制部において、一般的な内部監査と財務報告に係る内部統制の評価をそれぞれ業務監査室と統制監査室が実施しています。監査の効率化を図るため統合監査を行い、それぞれの独立性を確保しつつも重複する部分については排除を行い、効率的監査を実施いたします。2012年度も引き続き、効率化を目指した監査を実施する予定です。

身近な 空調のはなし



適切な空調設備が快適な空間を提供します。しかし、感じ方は人それぞれです。なぜなら理屈でなく、五感で感じているからです。五感とは、動物や人が外界を感知するための多種類の感覚機能のうち、古来からの分類による5種類／視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚をさします。快適さをどのように感じているかを紹介합니다。

ゆらぎと快適性

「ゆらぎ」という言葉を耳にすることがあると思います。地球の公転軌道や自転周期など、規則正しく動いていると感じる現象ではなく、規則性からの僅かなズレを伴っているものが私達の周りにたくさんあります。さまざまな「ゆらぎ」の中には、『小川のせせらぎ・潮騒・風向や

風速が少しずつ変化する『風・蛍の光』などの自然界の現象、『電車の振動・心地良い音楽の強弱やテンポ』などの人工のものにも、人間に快適感を与えるものが多くあります。これらのゆらぎは、ゆっくりした変化ほど変動の度合いが大きく、速い変化ほど快適と感じる変動の度合いが小



さまざまな場面で快適感を与えてくれる「ゆらぎ」

さいという性質を持っており、「変化の状態（周波数：f）」と「変動の大きさ」が反比例していることから「1/f ゆらぎ」と呼ばれています。

この「1/f ゆらぎ」を室内気流に応用して、省エネで快適な空間を提供することも、空調の課題の一つです。

森林浴と快適性

都会の喧騒を離れて森林の中に入り散策すると、穏やかな木々の緑が目に入り、小川のせせらぎや小鳥のさえずりが聞こえ、爽やかな空気と森林の香りを味わうことができます。森林浴には、私達の心身を癒してリフレッシュさせる効果があり、日光浴等と共に健康づくりに役立つとされています。



森林の空気の爽やかさと香りには、主に次の理由があるようです。

- ① 樹木などが光合成によってたくさんの酸素を放出する他に、葉の気孔から二酸化炭素と共に大気汚染物質も吸収するなど大気浄化作用が森林にある。
- ② 森林の空気は、土・下草・木の葉・きのこなどの色々な匂いが交っているが、独特な芳香性のある匂いがする。その香りは、樹木が微生物（細菌やカビ）から身を守るために放出するフィトンチッド*という抗菌・消臭・防虫など様々な働きをする物質によるもので、人を清々しい気分にしてリフレッシュする効果があるとされている。



注)*フィトンチッド
発見者であるロシアのトーキン博士により命名され、「樹木（フィトン）から放出されて周囲の微生物などを殺す（チッド）働きを持つ物質」を意味します。香気成分であるテルペン類がこれに相当すると考えられ、ひのき材など古くから生活の知恵としてさまざまな場所で利用されています

まな板や浴槽など、日本で古くから殺菌効果が利用されてきたひのき

空気も抗菌する時代

近年、医療施設における感染症やレストラン等における食中毒が話題となっています。これらの病原性微生物による人体への感染、または製品への汚染はその経路を特定することが困難です。しかし、これらを未然に防ぐには想定できる要因を最小限に減らすことが重要と考えられます。そこで、上記に対応すべく「抗菌加工」された製品が増えています。銅イオンによる抗菌効果は、人間や動物に対して非常に安全性が高く、抗菌効果が持続することから現在ではさまざまな製品に活用されています。

身近な物でいえば、ボールペンやシャープペン等、直接肌に触れるものも多く加工されています。

また、空調にも銅イオンの抗菌効果を活用し、快適な室内環境を作り出す製品（空調機）もあります。銅の優れた抗菌性は「微量金属作用」と呼ばれている金属の不思議な力によるものと考えられています。微量金属作用とは、水などに溶け出したごくわずかな量の金属イオンが、細菌類の働きを抑える効果のことで、銅だけでなく金や銀などにも同様の効果が認められています。そこでよく耳にする、殺菌・除菌・抗菌の違いを比較しました。



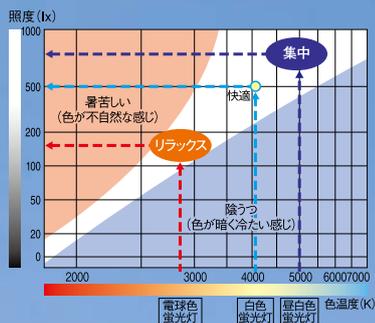
多種多様な抗菌グッズ

- 殺菌
有害な細菌を殺すこと
- 除菌
細菌を取り除くこと
- 抗菌
有害な細菌の増殖を防ぐこと

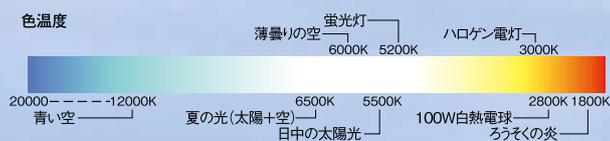
*「抗菌」とは、菌がついても、ある一定の時間しか生きられないような、それ以上増殖できない、菌にとっては住みにくい状態です

オフィスの知的創造性を高める光環境

従来のオフィスは白く明るい蛍光灯照明が一般的です。デスクワーク以外に多種多様な業務が増えている昨今、仕事内容、気分などを考慮し最適な照度と色温度



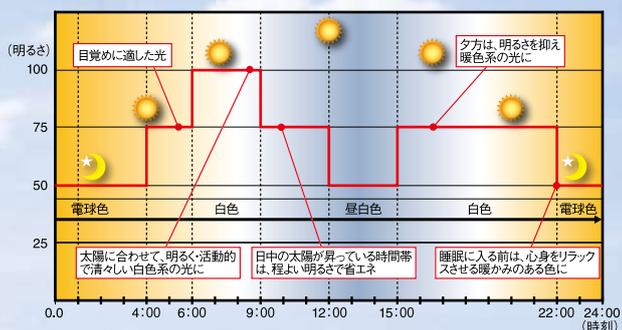
度を選定することで、執務者の快適性と生産性が向上することが明らかになってきました。色温度は低いほど赤みが、高いほど青みのある光色であり、一般的なオフィスでは5000K(ケルビン)の昼白色で選定されていることが多いです。低色温度の室内では落ち着いた暖かい雰囲気となり、また高色温度の室内では集中力が高まり仕事のパフォーマンスが向上するとされています。ただし、色温度と照度との間には、低照度の場合は低色温度、高照度の場合は高色温度という快適領域が存在します。ワークスタイルに合わせて自由に選択できることが、最適なオフィス環境と言えます。



照明とサーカディアンリズム(生体リズム)

人間は朝、太陽が昇ると身体は活動的になり、太陽が沈む夜になると休息に向かいます。このように1日の周期で睡眠と覚醒を繰り返すサーカディアンリズム(生体リズム)を持っていますが、環境は人それぞれ一定ではありません。夜遅くまで光を浴びるなどで、生活のリズムのズレによる体調障害を起こすことなども増えています。

このような1日の体内時計のズレを修正し、生活リズムを維持する上で、光の効果が注目されており、高照度の光を人体に照射することで、生体リズムを改善させるサーカディアン照明が提案されています。体内時計とのズレを修正し、健やかな生活リズムを維持する上で、照明が重要な役割を果たしています。



空調(熱・水)に係わる神社

○水神社(秋田県湯沢市)

秋田県湯沢市には「初丑祭り」で「えびす俵」を奉納する『水神社』があります。町内の男衆が鉢巻・下帯・足袋の勇ましい姿で水神社へえびす俵を奉納し、神社境内でもみ合うという岩崎地区の民族行事です。別名「裸祭り」天保元年(1573年)川連城へ嫁ぐため近くの皆瀬川を渡っていた岩崎藩城主:藤原道高の娘能恵姫が竜神にさらわれました。初丑祭りは、この悲話「能恵姫物語」に基づいたものです。姫の霊を慰めようと、嫁入りの日だった旧暦11月の初丑の日に、姫を奉っている水神社で行われています。午後6時30分ころから各町内のえびす俵が町内を練り歩き、午後7時30分ころを目途に神社境内へとたどり着きます。境内では甘酒のサービスのほか、地元の創作太鼓「能恵姫龍神太鼓」が祭りを盛り上げます。



「初丑祭り」
(湯沢市岩崎水神社)

○熱那神社(山梨県北杜市)

山梨県北杜市に「熱那神社」という神社があります。創建は不明ですが、元は日本武尊(ヤマトタケル)を祀っていたとのこと。武田信玄も出陣の際は必ず参拝したとのこと。神紋は「花菱」で拝殿や神門にも花菱の紋がついています。門から参道は少々薄暗く細く、本殿には色々な彫刻が施されており、東面には青龍・北面には玄武・西面には白虎が見えます。敷地には美しい渡り廊下や神楽殿などもあり、本殿は北杜市の指定文化財に指定されています。熱那神社の太々神楽も、無形民族文化財に指定されています。古文書によれば弘化二年(1845年)に『太々御神楽講中』という文字があることから「大和神楽」と呼ばれるようになったのは、それ以後のことであろうと思われます。神楽面(全18面)が伝えられており、その1面には、『文化十西浅尾神社』と墨書のある中将面があることから、文化10年(1813年)には神楽の奉納が行われていたことが認められています。また、熱那神社の桜は昭和56年8月に天然記念物に指定されており、



社殿全体にわりと繊細な彫刻が施されている

根回り5.5m/樹高22.5mのエゾヒガンザクラです。



エゾヒガンザクラ ©photograph.pro

今回は、空調(熱・水)に因んだ神社を紹介しました。両神社とも見所が豊富であり、一度立ち寄りた場所ではないでしょうか。

- 水神社 秋田県湯沢市岩崎千年283
TEL:0818-73-2904(岩崎地区センター)
アクセス:湯沢横手道路湯沢ICから車で10分
- 熱那神社 山梨県北杜市高根町村山西割1714
TEL:0551-42-1375(北杜市教育委員会)
アクセス:中央自動車道長坂ICから車で10分



安全・品質・ 環境マネジメント

マネジメントシステムのさらなる実効性を追求しています。

マネジメントシステムの概要

労働災害、品質事故および環境汚染の予防を目的に、安全(OHSAS18001)、品質(ISO9001)、環境(ISO14001)のシステムを一本化し、2011年4月より統合マネジメントシステムとして運用しています。



内部監査員養成セミナーの様子

安全・品質・環境活動に精通した 内部監査員の育成

労働災害・品質事故・環境汚染の予防を目的に安全(OHSAS18001)、品質(ISO9001)、環境(ISO14001)のマネジメントシステムを統合し、実効性を高めることにより現場作業負荷の低減を目指しています。

マネジメントシステムの継続的改善に重要な役割を果たす内部監査員の養成に関しては、業務の流れを「見える化」するために、フローチャートと図解を取り入れた「統合マニュアル」をベースに、過去の災害・事故事例を使った「ケーススタディー」を活用した演習を行っています。全国の支店、各部門及び関連会社の担当者など多数受講しています。



Management of safety, quality and environment

安全活動

安全にかかわる一人ひとりが「随処作主」の精神のもと、協力会社と一丸となって安全衛生活動を推進しています。

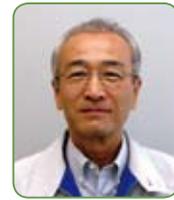
※随処作主(いかなる局面においても、何事においても当事者意識を持って取り組みれば良い結果につながるという意味)

経営者のコミットメント

安全・品質・環境方針は「技術方針」を柱とした経営に直結する方針であり、労働者の安全衛生、現場施工の品質向上、顧客の満足、環境の保全を維持・向上させるために広く社会に表明しています。安全・品質・環境方針は工事を施工する上

で、安全衛生活動をベースに品質・環境活動を確実に機能させるとの考え方に基づき一本化を図りました。

また、具体的な活動事例をアクションプランにまとめ全現場に掲示し経営者のコミットメントを明確にしています。



専務取締役 技術本部長

山本英幸

* 新日本空調株式会社 2012年度 安全・品質・環境方針 *

2012年度 技術方針

《安全・品質・環境》

統合マネジメントシステムの活用による現場力強化

2012年度 安全・品質・環境方針

1. 法規制の順守はもとより、社会規範および当社企業行動憲章に基づき行動する
2. 負傷および病的健康状態の予防、安全に働ける作業環境を構築し、無事故・無災害の達成を目指す
3. お客様の要求事項を満足する技術と品質を提供するとともに、環境保全活動を積極的に推進する
4. 安全・品質・環境マネジメントシステムにおける、目標の達成、有効性について、継続的な改善を図る
5. 技術開発から現場施工、サービスに至るまでの事業活動において省エネルギー、省資源に配慮し、環境負荷の低減および汚染の予防に努める

重点実行項目	アクションプラン
安全	<ul style="list-style-type: none"> 「声かけ」を徹底し、ヒューマンエラーを防止する ハトロールでは重点チェック項目を事前に決定し、マンネリ化を防止する 小工事においてもリスクを共有し、対応策を計画・実施する 施工検討会で決定された重点管理項目の実施状況を「フォローアップ」する
品質	<ul style="list-style-type: none"> 「声かけ」を徹底し、ヒューマンエラーを防止する。 施工検討会にて、塩ビ配管・機械式継手の有無を確認し、「ディテールチェックシート」を活用する 小工事においてもリスクに見合った重点管理項目を特定する 施工検討会で決定された重点管理項目の実施状況を「フォローアップ」する
環境	<ul style="list-style-type: none"> 「声かけ」を徹底し、ヒューマンエラーを防止する。 施工検討会にて、塩ビ配管・機械式継手の有無を確認し、「ディテールチェックシート」を活用する 小工事においてもリスクに見合った重点管理項目を特定する 施工検討会で決定された重点管理項目の実施状況を「フォローアップ」する

統合マニュアルの運用開始

2012年4月からは従来の「労働安全衛生マニュアル」と「品質・環境マニュアル」を統合し「安全・品質・環境マニュアル」として“実務の流れに従った章立て”“フロー図・表を用いた業務手順”など全面改訂し運用を開始しました。

この統合マニュアルを活用し、労働災害・品質事故・環境汚染の予防活動を業務に密着させた実効性の高いものにしていきます。

1. 4. 1 方針および目標 (重点実行項目、アクションプラン)

労働災害の防止、顧客満足と見える品質の確保、当社を取り巻く環境の保全に対する「方針」「目標」を定める。

【安全・品質・環境方針の策定手順】

- 1) 当社の「企業理念・企業行動憲章」「技術方針」をもとに決定する。
- 2) 「安全・品質・環境委員会」にて、「事業部の年度計画」「危険防止の検討会」「年度計画 (安全・品質・環境)」をもとに「安全・品質・環境方針」を策定する。
- 3) 「安全・品質・環境委員会」にて「安全・品質・環境方針」「重点実行項目」を決定する。

1. 安全・品質・環境方針

- 1) 負傷および病的健康状態の予防、目標の達成、汚染の予防に関する約束、システムの有効性について、継続的に改善する約束を含む。
- 2) 適用される労働安全衛生法、環境法規制および関係法規を遵守するその他の要求事項を遵守する約束を含む。
- 3) 職員への周知は、工事現場管理システムを利用する。協力会社およびその作業員に対しては、G5ネットワーク(インターネット利用)、新職人研修教育、協議会等で行う。
- 4) 労働安全衛生に対する周知と、その入手を可能とするため、当社ホームページにて公開する。
- 5) 「安全・品質・環境方針」は年度ごとに見直し。

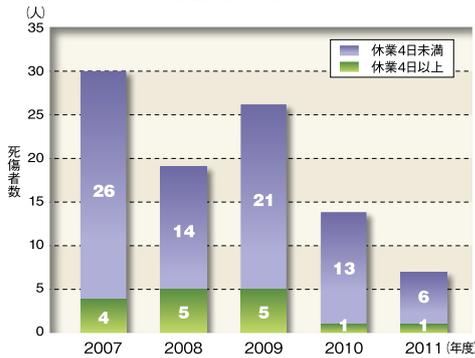
全面改訂でより有用になった「安全・品質・環境マニュアル」



安全活動

マネジメントシステムの運用において、安全活動の問題・課題を隠さずに「見える化」を行い、見えることで対策を検討処理し、労働災害の予防へとつなげています。

労働災害発生状況



2011年度の労働災害発生状況

2011年度、労働災害の被災者数は、休業4日以上は1人、4日未満6人(全員不休)と直近5ヵ年の中で一番少ない数となりました。全体として減少傾向ではありますが、2009年度には1件の重篤な災害が発生しています。

2012年度も継続して、チームSNKの仲間から被災者を出さない強い意志を共有し、OHSAS18001を軸とした統合(安全・品質・環境)マネジメントシステムのもと、パトロールを含め、安全管理を強化します。

社長による現場巡視!

2011年7月、高橋社長による現場巡視を実施しました。視察現場は「浜離宮」のすぐそばに位置し、地下1階/地上13階、延床面積は約31,600㎡のテナントビルです(完成後『浜離宮三井ビルディング』)。

現場所長の経験を持つ社長が、経営者の視点や顧客目線で安全・品質・環境活動の実施状況を確認しました。前線の「現場力」が業績を左右することから『前線第一主義』を提唱している社長の巡視とあって、現場担当者の士気も大いに高まりました。



現場巡視する高橋社長(右)



詳細報告を受ける高橋社長(正面左)と現場スタッフ



Management of safety, quality and environment

品質活動

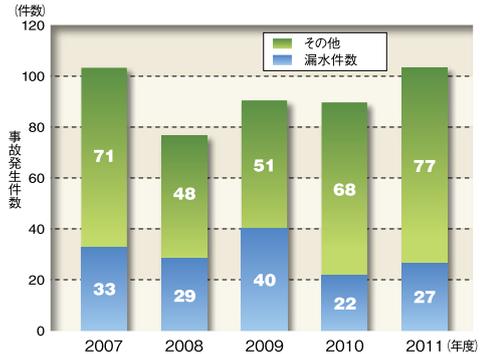
常にお客様のご要望を満足させる技術と品質を提供します。

2011年度の苦情・事故発生状況

2011年度の苦情事故件数は104件、内漏水事故は27件でした。件数としては増加傾向にあります。これは“お客様からの声”が、担当者のみでなく、全関係者に広く周知され、そして再発防止に全社で取り組めることを表します。

この取組みと経験を生かし、今後の技術向上による品質管理に努めます。

※苦情・事故発生状況※



Voice ① 工場見学で現場のコミュニケーションを再認識



原子力事業部
佐藤隼人
(2012年度入社)

自ら取り組む仕事だけでなく、協力会社さんが実際に行っている仕事を拝見することは非常にためになりました。実際のダクト接続、吊込みを体験させてもらい、目で見るのとやってみるとでは全然違いスムーズに作業ができず苦労しました。最後に、協力会社の方から私達に求めることとして、コミュニケーションが大切であると言われ、現場に出た際には、積極的に職人さんと言葉を交わしていきたいと思いました。



（株）協和工業埼玉工場
ダクト製作過程を見学

ダクトの吊り込みを実際に体験

Voice ② JR研修センターで安全管理の大切さを改めて実感



都市施設事業部
川崎智貴
(2012年度入社)

工期を急ぐあまり高所作業にもかかわらず安全帯を装着しなかったため墜落し、大怪我や命を落としてしまった作業の方のお話を、実物の安全帯や模型を見ながら聞かせていただきました。ちょっとした油断が命を落とすことになるので改めて実感し、災害がリアリティーのあるものに感じました。安全第一を徹底できる現場を作りたいと強く思いました。



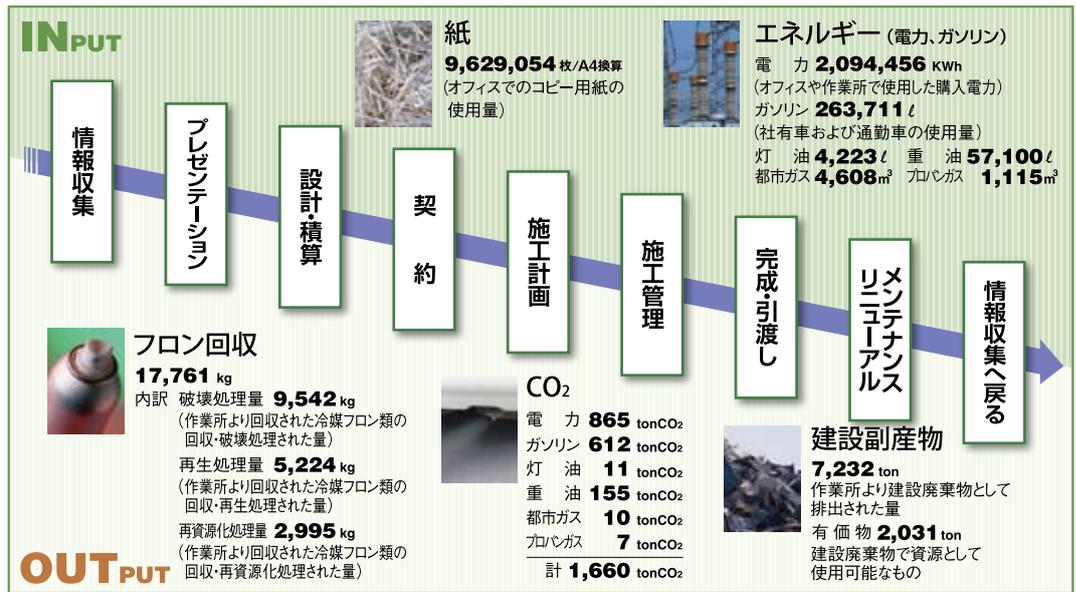
JR研修センターの講師の方に
災害事例等の説明を受ける



環境活動

環境設備企業として「環境方針」に基づき活動方針を明確にした「アクションプラン」を定め、環境負荷の低減に努めています

新日本空調のINPUTとOUTPUT



注記

- データ集計範囲は、新日本空調の本社、支店のオフィスと工事作業所としています。(ただし海外工事は含みません。)
- CO₂排出係数: 電気0.41、ガソリン2.32
電気事業連合会: 2011年9月版「電気事業における環境行動計画」使用端電気CO₂排出原単位
環境省: 地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条(平成18年3月24日 一部改正)「排出係数一覧」より

2011年度環境活動報告と評価

2011年度は、設計提案によるCO₂排出量の削減、建設副産物排出量の削減を重点に活動し、目標をほぼ達成しました。

2012年度も重点実施項目として活動すると共に、生物多様性を配慮した環境保全活動を推進します。

[2011年度 環境目標および活動内容]

2011年度の環境目標		2011年度の活動結果	社内評価
設計	設計提案によるCO ₂ 排出削減	目標60,000tonCO ₂ に対し、48,120tonCO ₂ の削減提案を実施。	○
施工	3R活動の推進による建設副産物排出量の削減 化学物質管理への対応	建設副産物総排出量は、目標4,000tonに対し、7,232ton。(元請工事が増えたため) 有価物としての処理は前年度382tonから2,031tonと増加した。	△
	①現場排出物の管理・把握 分別回収の徹底、リサイクル回収の推進	建設副産物総排出量は、目標4,000tonに対し、7,232ton。(元請工事が増えたため) 有価物としての処理は前年度382tonから2,031tonと増加した。	△
	②無梱包・梱包簡素化、簡易梱包の推進	無梱包・梱包簡素化、簡易梱包 可能な現場の施工前検討と実施現場拡大。(通い箱使用現場: 13現場)	○
	③機器、資材のユニット化、プレハブ化による 現場持込資材の減容化推進	機器、資材のユニット化、プレハブ化 可能な現場の施工前検討と実施現場拡大。	○
	④MSDSによる環境・安全上の情報確認、作業管理の実施	現場で塗料・接着剤等、化学物質使用資材の購入時、データ(MSDS)を入手し環境に与える影響等を確認実施。	○
オフィス	環境負荷低減活動の推進		
	①温暖化ガスの総排出量の管理・把握	電気・ガソリン・ガス・灯油等の使用量削減活動により、温暖化ガス総排出量1,660tonCO ₂ 。(2010年比27%減少)	○
	②自動車・輸送における環境負荷低減	12台の省エネ車(電気自動車×3台、ハイブリッド車×9台)への切替えを実施。	○
	③グリーン調達基準の策定、運用	グリーン調達要領を運用。 事務用品グリーン調達比率49%(グリーン調達金額/事務用品購入金額)	○

建設副産物の削減

2011年度の建設副産物は、7,232tonでした。
 数値増の要因の一つは、産業廃棄物処

理の“排出事業者”となる“元請け”工事の受注・完工の増によるものです。分別収集を基本とし適正処理を継続します。



設計段階での省エネ提案の推進

お客様に対し、環境に配慮した省エネ提案を行いCO₂排出量の削減を推進しています。2011年度は、提案したCO₂削減量は減少したものの、設計提案件数は横ば

いでした。2012年度も当社の実用化技術（Zリブダクト、P-Qマスター等）の提案も含め、お客様に貢献できる環境負荷低減活動を推進していきます。



環境にやさしい電気自動車を3台導入

当社は、環境に配慮した車の導入を進めています。2011年3月、首都圏地区の3拠点現場に三菱自動車製の電気自動車（EV）3台を新規に導入しました。この電気自動車には、心臓部に当たる駆動用

バッテリーに、当社が施工した(株)東芝 柏崎工場で生産されている最新鋭のリチウムイオン電池「SCiB」が採用されています。今回導入された電気自動車は、客先訪問や現場への移動に活用しています。



納車後の安全折願

【2012年度 環境目標および活動内容】

	2012年度の環境活動	目標値
設計	省エネ提案を積極的に推進し、CO₂排出量を削減する。 ・客先設備の運用に伴うエネルギー消費量およびCO ₂ 排出量を削減する。 ・環境に配慮した資機材および数量削減の提案を行う。 ・補助金制度を活用し、省エネ提案を推進する。	60,000tonCO ₂ 以上
施工	資機材の削減・減容化を行い、廃棄物量を削減する。 ・梱包材の削減として「通い箱」を使用する。 ・「ZリブQダクト」の使用を推進し、軽量化、原材料の削減を行う。 ・「ユニット化、プレハブ化」による現場持込資機材の減容化を行う。 ・3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生使用）活動で、廃棄物量を削減する。 ・事務所の節電計画を作成し、見える形で節電目標を達成する。 ・事務所のLED照明、LED投光器の採用を推進する。 ・フロン回収における再資源化を推進する。	4,500ton以下
オフィス	環境負荷低減活動の推進により、温暖化ガス排出量を削減する。 ・オフィスでの電気・ガソリン・灯油等の使用量削減 ・業務用車両（リース車含む）での省エネ車の導入推進 ・協力会社への環境負荷低減活動の推進要請 ・グリーン購入の推進 ・温室効果ガスCO ₂ 排出量を削減するための省エネ設備導入の検討 ・海・河川の清掃、植林を行い、生物多様性の保全を推進する。	2011年度比5%削減 1,600tonCO ₂



産業施設事業部 八王子拠点事務所に「i-MiEV」を導入



産業施設事業部 朝霞拠点事務所、リニューアル事業部浦安作業所に「MINICAB-MiEV」を導入



環境配慮型物件の施工実績紹介

高いレベルの要求に、
自社開発の環境技術と細部まで配慮した設備工事で応えます。

省エネと環境に配慮した緑の多いキャンパスを施工

愛知大学 新名古屋キャンパス

愛知大学新名古屋校舎は、名古屋市が掲げる開発コンセプト「国際歓迎・交流拠点の形成やにぎわいのある複合型まちづくりの推進」と、大学の精神が合致し建設されました。新校舎は、延62,710㎡の規模で、講義棟(11階)と厚生棟(10階)の2棟で構成され、半屋外空間のキャンパスモールには、壁面緑化・ドライミストが設置されています。その他に屋上緑化・自然換気システムを取り入れるなど環境に配慮した建物となっています。

当社は、空調設備工事を担当し、地下階に併設された地域冷暖房施設から熱源を受入れています。空調方式は、空調機VAV可変風量方式+FCU方式、空冷ヒートポンプ方式などを採用しています。また、東日本大震災の災害事例対策を機器・配管類の耐震対策として施工に反映させています。その他では、外気冷房・CO₂濃度制御・変流量制御・地熱利用のクールヒートチューブ等により省エネ対策・環境配慮建築の実現に寄与しています。



駅からの利便性が高く、高層階からは名古屋の景色が一望



名古屋支店 技術部

吉田昌明

浜離宮に隣接した都会のオアシス

浜離宮三井ビルディング

築地にある浜離宮三井ビルディングは、三井造船(株)の旧日本社ビルの跡地に建設されました。地下1階・地上13階、延床面積は約31,600㎡からなり、低層階は店舗および貸会議室、3～13階は事務所階となっています。浜離宮恩賜庭園に隣接し、基準階からはその絶景を一望できる見晴らしの良い建物です。

当社は空調設備工事を施工しました。事務所階では、空調機VAV可変風量方式と空冷HPパッケージ方式を採用し、施工面では、フローユニット工法を採用し、ダクト、保温工事を先行させました。繁忙期を分散して設備工程の重複作業を回避することで、安全面および品質管理面に寄与しました。また、以前から問題視されていた築地川の臭気対策として、イオン分解機能を持つダクト挿入設置型の酸素クラスター脱臭装置を導入し、第1種認定事業所の臭気判定士による三点比較臭袋測定法で脱臭効果の判定を行った結果、かなり鼻につくにおいが脱臭されることをお客さまに体感していただき、大変ご満足いただきました。



備蓄倉庫の導入で地域の防災に一役



都市施設事業部 技術部

あぜち 睦地哲夫

機能を集約しワンストップで研究

塩野義製薬(株) 医薬研究センター

●撮影:古川泰造

塩野義製薬(株)の医薬研究センターは、大阪府豊中市を流れる神崎川の畔に位置しています。地上5階建て、建築面積約10,100㎡、延床面積約44,000㎡で、大阪府と滋賀県の4カ所に分散していた同社国内の創薬研究機能を医薬研究センターに集約し、病気に関わる体内物質の発見から新薬の合成までを1カ所で完結できる研究所です。

当社は、給排水衛生設備、消火設備、実験・生産用ユーティリティ設備を施工しました。上水・工水の供給はその大半を高架式とし、空調設備の冷温熱源・給湯熱源として貫流ボイラーを設置し、24時間蒸気の供給を行っています。

また、実験室内の配管設備や器具の洗浄設備についても設計段階から実施工まで行い、お客さまのニーズにお応えした設備を提供しています。



大阪支店 技術部
橋本昌樹



国内研究拠点の集約で治験薬製造と商用生産へのシームレスな展開を図る

鳥海山を望み市民に憩いの静寂空間を提供

由利本荘市文化交流館「カダーレ」

秋田県由利本荘市は秋田の名峰・鳥海山を望む日本海沿いに位置し、由利本荘市文化交流館「カダーレ」は、地上3階・地下1階、延11,750㎡、敷地面積13,335㎡からなり、前衛的なアート空間に、劇場、スタジオ、プラネタリウム/天体観測室、図書館、市民ギャラリー/活動室、和の空間茶室等を兼ね備えています。

当社は、空調設備・給排水衛生設備・消火設備・ガス設備を施工しました。特に重視した点は、静寂空間を創造することでした。外気冷房、自然換気システムを採用しており、環境にも配慮した建物となっています。2011年3月11日、東日本大震災に見舞われ、竣工が4ヵ月延期となりましたが、震災に強く市民の憩いの場となる文化施設が落成しました。



東北支店 技術部
佐藤貴彦



愛称「カダーレ」とは「仲間に入れ!」の意味を持つ秋田方言の「かだれ」に由来



環境技術紹介

高いレベルの要求に、
自社開発の環境技術とソリューションで応えます。

消音器有/無のファン吐出騒音

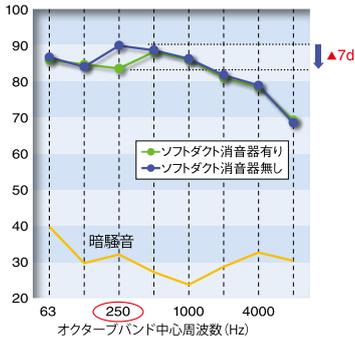


図1



ソフトダクト消音器組込み空調機の開発

当社と新晃工業(株)は「音響的ソフト境界」の消音原理を利用した低騒音コンパクト型空調機を開発し、2011年7月1日より新晃工業(株)から販売を開始しています。

本空調機は、当社が開発したソフトダクト消音器と、新晃工業(株)のプラグファン内蔵コンパクト型空調機とを組合せ、グラスウールなどの吸音材を使用せず、高効率プラグファン特有の低周波(250Hz)を減音させた空調機です。(図1参照)

近年、空調機内蔵ファンはシロッコファンに替わり、省エネ性の高いプラグファンを採用する例が増えています。しかしプラグファンの発生騒音は、シロッコファンと比較して概ね250Hzの低周波域で高い傾向にあります。しかし、一般の吸音材を使用した消音エルボやサイレンサーなどの消音装置は中高周波の低減に有利な特性であることから、低周波減音のために過大なサイズのものを使用する場合も少なくありません。そこで、九州大学名誉教授の藤原恭司氏が発明した「音響的ソフト境界」を利用した消音技術「ソフトダクト」に注目しました。今回、ソフトダクト消音器を組込んだ空調機では、低周波の250Hzにおいて7 dBの減音効果を確認しております。

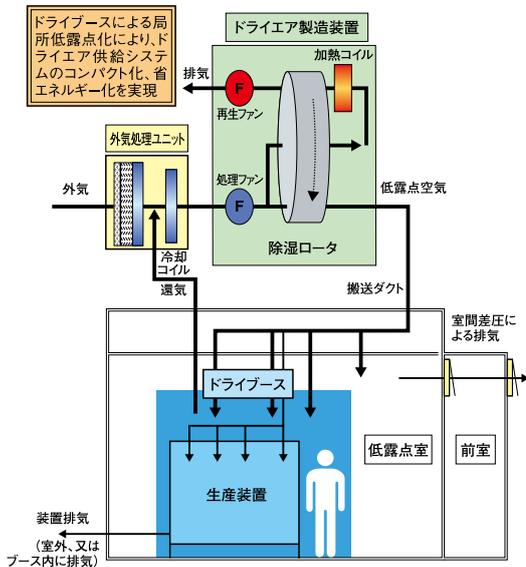


都市施設事業部
施工技術推進室

田村 稔

吸音材を使用しないため、繊維の飛散や油分・塵埃による性能劣化がなく、廃棄時には鉄板と分ける作業も不要です。

ドライエア供給システム構成図



デシカント技術による「ドライエア供給システム」を販売開始

当社は、昨今、急速に伸長する二次電池製造メーカー向けに、この製造環境として必須の低露点環境を可能とする「ドライエア供給システム」の開発を終了し、2011年9月より販売を開始しました。この「ドライエア供給システム」は、局所低露点化技術を活用することで高い省エネルギー性を有しており、二次電池製造メーカーや関連部材メーカーなどに、拡販活動を展開しています。“局所低露点化技術”を導入することにより、低露点室における露点管理において、従来方式に比べドライエア供給量を30~50%削減することができ、省エネルギー性の高いシステムと致しました。



技術本部
技術企画部

木村 崇

ドライエア製造装置については、ゼオライト系吸着材を用いた除湿ロータを単段で搭載した装置にて、露点-70℃以下の製造が可能です。更に除湿ロータを二段とした装置においては、露点-90℃以下の超低露点空気も製造可能です。

『Ag-ion Masterエージーイオンマスター【特許出願中】』を開発

当社は、業務用空調向けに銀イオンを利用した殺菌技術を開発し、その技術を実用化した銀イオン発生装置として、気化式加湿器用の“銀型ゼオライト充填カセット (Ag-ion Master)”の販売を2011年より開始しました。

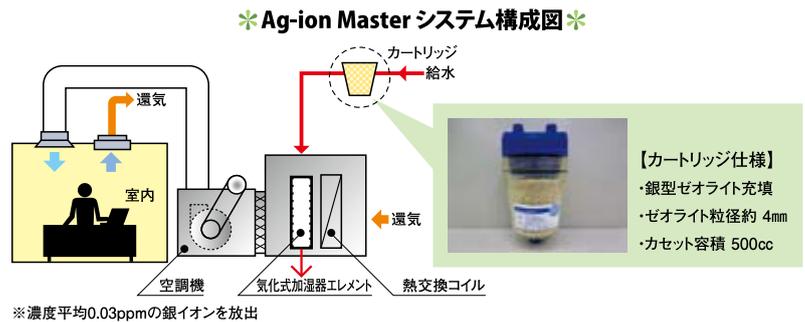
本製品は、気化式加湿器のエLEMENTに発生する細菌の増殖を抑制することができ、その結果、細菌の室内への飛散を減少させ、感染症の有効な予防対策を実現することができます。また、雑菌による臭気発生を抑制する効果も期待できま

す。省エネルギー性の面では、加湿器を蒸気式から水による気化式に変更することで最大65%程度のエネルギーの削減が可能になります。

今後は、省エネや節電対策を必要とするお客さまへ、本製品を盛り込んだ新築・リニューアル・修繕計画などを提案していくとともに、さらに微生物対策空調技術の拡充を図り、ワンストップソリューションサービスを充実させていきます。



首都圏事業本部
ファンデイノベーションセンター
坂下行範



「絶対に指を挟まない扉」が環境・設備デザイン賞最優秀賞を受賞

建築設備総合協会が主催する第9回環境・設備デザイン賞に応募した「世界初!絶対に指を挟まない扉」が最優秀賞を受賞しました。

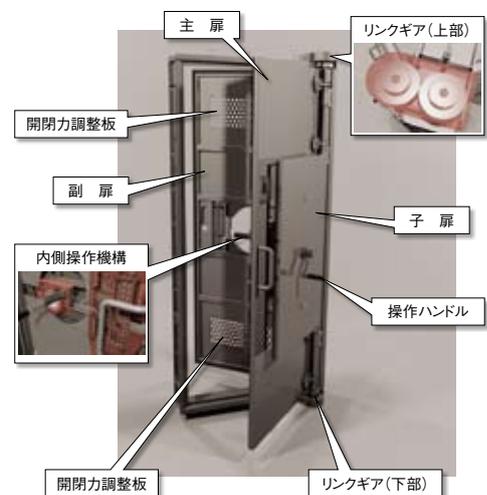
扉で仕切られた2室間に圧力差があると、開閉操作に伴って扉が急激に開いたり、急激に閉じたりすることがあります。このような状況では、開閉者に常に慎重な操作と急激な動作抑制のための重労働を強いるだけでなく、過去に身体をぶつけたり、扉に引きずられて転倒したり、枠と扉で指を挟まれる等の事故が発生しています。

油圧や空気圧、電動等のアシスト装置もありますが、高価でその装置自体のメンテナンスが必要であったり、動力を喪失すると開閉操作ができなくなったりする可能性があります。そこで、外部動力は一切使用せず、内開き扉と外開き扉の相反する動作を組み合わせ、両扉に働く力を打ち消し合わせて安全に操作できる扉を発明しました。(平成16年2月20日出願、特許第4261385号)



原子力事業部
技術企画部
伊藤孝信

「絶対に指を挟まない扉」の構造



ステークホルダーとの対話

説明責任を果たし、積極的にコミュニケーションを図ることが、顧客や株主との良好な関係になると考えます。新日本空調はすべての人との対話を大事にします。



人権・制度・人材育成・職場環境

差別や偏見のない、社員全員が安心して働ける環境づくりを進めています。ゆとりと満足感のある仕事が私達のやりがいの源です。



現場の一丸体制は朝礼から



デスクワークも重要な仕事

Voice ① 『初めての現場代理人』



リニューアル事業部 技術部

宇佐美勝悟

【現場代理人に至る道のり】

入社当時は、職人の方々との積極的なコミュニケーション、現場の流れ、工事用語を覚えることに努め、3年目から社内でも注目される工事に携わりました。毎週金曜日の夜から日曜日の夜にかけて昼夜を通しての工事を行い、月曜日の朝迄に終了させるという過酷なスケジュールの中、工程管理、品質管理、作業員・材料の手配等、現場の主担当を任せられました。

【「また一緒に仕事がしたい」と言われる現場代理人に】

入社5年目の昨年、現場代理人を任せられました。これまでの業務に比べて大きく違うところは予算管理に費やす時間がずいぶん増えました。仕事の価値を評価してもらい、お金を頂いたときは大変にやりがいを感じます。私の今後の目標は、1人でも多くの人と仕事をし、「宇佐美さんとまた仕事をしたい」と言われるような人間になることです。

〈若手人材の早期育成〉

新入社員研修や現場におけるOJT教育、専門スキルを学ぶ集合研修を定期的実施し、早期に現場代理人を担う人材になるよう育成します。

Voice ② 『仕事と生活の調和』



名古屋支店 技術部
後藤比佐志

【仕事とプライベートの二兎】

私は欲張りなので、常に人生と仕事の二兎を追いかけています。仕事は、効率を上げる工夫や、より良い仕組みづくりを実践し、自分の時間をひねり出すようにしています。そこで得られた時間を利用して、10年以上続けている週末のジム通いでの健康維持、そして家族サービスを行い平和な家庭を築けるよう心がけています。

【リフレッシュ休暇を利用して】

リフレッシュ休暇は、安息と地元探訪によって心身をリフレッシュしています。先日は地元出身者である妻の案内で兼六園を訪れました。木々を眺め、ぶらぶらと散策しながら、他愛も無い会話を交えつつ、夫婦の絆を深めることができました。やはりリフレッシュ休暇や余暇を利用しプライベートを充実させれば、仕事のパフォーマンスも向上します。みなさんも時間を作り、何か新しいことを始めてみてはいかがでしょうか？



心身共にリフレッシュ

＜リフレッシュ休暇制度＞

現場勤務者を対象として、連続3日間の代休取得を促進する制度です。公私共に職員のモチベーションの向上を図ります。

Voice ③ 『出産後のやりがい・育児と仕事の両立』



産業施設事業部 設計部
武内淳子

【出産から復帰して】

現在、CADを使つての図面作成や、気流解析等の設計補助、電話対応や書類作成等を行っています。復帰後の業務で「早くできた」「役に立てた」など小さな達成感と、自身の成長を実感し充実感を得ています。これまで3人の子供を授かりました。3度の育児休暇を気持ちよく送り出していただき、復帰後温かく迎えてくださった周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、効率的で正確な業務を一層心がけています。

【子供の成長を励みに奮闘中】

帰宅後は息をつく間もなく食事、入浴、宿題、寝かしつけ等、子供の世話で大忙しです。料理、洗濯などの家事であつという間に一日が終わり、休日でも慌ただしく過ぎますが、子供の成長を励みに奮闘しています。仕事と家庭の両立は大変ですが、日々の積み重ねを大切に、いつかは自分が支える立場になれるよう精進していきたいです。



手のかかる“元気の源”

＜産前産後休暇・育児休暇制度＞

社員が、一定期間育児に専念できるよう休暇を取得できる制度です。出産前、出産後は長期休暇及び短時間勤務で、女性職員のバックアップを行います。

Voice ④ 『定年再雇用後も現場で活躍』



九州支店
渡辺涼一

【定年再雇用後の仕事】

昨年、定年を迎えました。やはり継続して働きたいと再雇用を希望しました。再雇用後は10数年ぶりに施工現場に常駐し、施工管理業務を行いました。久々の現場勤務でしたが、客先との交渉には手応えを、工事完了時の達成感に「やりがい」を感じました。その後は、会社説明会や一次面接官などを担当しています。当社の実情と当社に対する学生の持つイメージとのギャップ解消に努めています。

【今後の目標】

今後は、技術営業の立場として、技術提案や補助金事業、新規事業提案、様々な情報提供やコーディネート業務を行い、営業支援も行うつもりです。もちろん、CADの知識習得や施工図作成業務を行い、施工現場の支援も考えています。趣味の庭木・土いじりやゴルフの練習、孫の面倒を見るなど、プライベートもさらに充実させたいです。



会社説明会 学生から元気・パワーをもらってます

＜定年再雇用制度＞

定年再雇用者の経験と実績を踏まえ、業績向上に最も貢献する業務内容・勤務形態にて活用していきます。業務を通してノウハウ・人脈の伝承と人材育成を図ります。





社会貢献活動

新日本空調は当グループに関する情報を幅広く提供し
社会・地域の皆さまと積極的なコミュニケーション活動を進めています

社長が原子力事業部いわき事務所を視察



激励する高橋社長

2011年6月29日、高橋社長、山本技術本部長が、いわき事務所を訪問し、原子力緊急事態宣言が出されている東京電力(株)福島第一原子力発電所(以降1Fと称す)を視察しました。1Fへの前線基地となっているサッカーで有名なJヴィレッジ(福島県双葉郡楢葉町)で、作業員と同様の防護服、全面マスクを着用のうえ、個人用放射線量計を装着し1Fへ向かいました。

前線司令部である重要免震棟を視察し、安全決起集会に参加。高放射線量下の過酷な環境で熱中症と隣り合わせで復旧作業に頑張る我々の仲間を激励されました。高橋社長からの直接の激励の言葉な



防護服に身を包み前線基地へ

どにより、現場の職員や協力会社の参加者の士気は上がり、「チームSNK」として、1Fの安定化への貢献と今後の無事故・無災害を誓い合いました。



安全決起集会の友村工事責任者(中央)

千葉ポートパークで“清掃ボランティア活動で爽やかな汗”

2011年9月、(社)千葉県空調衛生工事業協会主催の「県土クリーンキャンペーン」に参加しました。当日は、薄曇りながら、まだ真夏の余韻が残るとも蒸し暑い日で

したが、趣旨に賛同していただいた千葉県水道管設備工事業協同組合の会員124名が清掃活動に汗を流しました。

ポートタワー下の人工海浜に集合し、海辺や芝生公園、散策路など広大な園内で約1時間半にわたって捨てられた空き缶、ペットボトル、波打ち際に打ち上げられた木くずなどの雑多なごみを丹念に回収して歩きました。

中には、とても太い流木や、放置された自転車の残骸などの大きな廃棄物もあり、収集したごみはトラック2台分ほどになりました。終了後参加者は“爽やかな汗”を拭き達成感を共有しました。



今回が3回目となるボランティア清掃活動に参加の面々



毎年恒例の行事として
すっかり定着

協力会社の方々と一体となった宮島・厳島神社の清掃活動

2011年9月、大河ドラマの舞台にもなった世界遺産の宮島・厳島神社にて毎年恒例行事の中国支店・協力会社合同のハイキングならびに海岸清掃を行いました。中国支店の社員とその家族62名、協力会社の社員とその家族89名の合計151名が参

加しました。宮島の美しい自然を守ろうと海岸清掃を行い、またバーベキューでは協力会社の方々と交流を図り、有意義なひと時を過ごすことができました。中国支店は、現場の安全・品質活動を協力会社の方々と一丸体制で取り組んでいきます。



清盛ゆかりの宮島の
美化に貢献

名古屋市観光名所で“公園と護岸の清掃活動”

2011年10月、堀川「宮の渡し公園」清掃活動に参加しました。この活動は、地域名所の美観保全を目的に、NPO法人堀川まちネットと名古屋三栄会が共催した「公園内と堀川護岸の清掃活動」です。同公園は江戸時代に熱田宿から桑名宿までの「七里の渡し」として栄えた船着場が公園として整備されたもので、名古屋市の観光名所となっています。清掃終了後、NPO法人堀川まちネットの方より、ここの地域

の生態系の説明を受け、みんなが日常生活でできる環境にやさしい活動の推進についてのお話もあり、このような活動がいかに重要であるかを再認識でき、これからも美観保全活動に積極的に参加することを再確認しました。



次世代に引き継がれて行く
地域の美観保全に一役



清掃活動を通じ、美観保全の
重要性を再認識

東北支店 協力会と合同で決起大会を開催！

2011年11月11日、東北支店では協力会と合同で決起集会を開催しました。

開催場所は、当社が震災直後に“汚泥”の処理を行い、早期の営業再開に向け復旧対応を行った「松島センチュリーホテル」で、東北支店から33名、協力会から48名、総勢81名が参加しました。

決起集会は、協力会の鈴木会長並びに三橋支店長の「東北復興に向けて頑張ろう！」という挨拶から始まり、「今回の震災復興については協力会全員が功労者である」ということで、協力会各社へ感謝状を

贈呈し、併せてチャリティ募金も行い、仙台市災害対策本部へ寄付しました。

東北地方の復興は、依然として厳しい状況が続くと思われま。これからも東北支店・協力会は共に力を合わせて頑張っていきます。



震災直後の汚泥処理作業現場



東北地方の復興に向けて、東北支店・協力会社が
気持ちも新たに一致団結



Social approach

社会貢献活動

「良き企業市民」として、ステークホルダーとのコミュニケーションを図り、芸術文化・スポーツ・教育・福祉などの振興を継続的に支援し、社会貢献活動への参加を積極的に行っています。



2011年12月9日(金) ふれあいプログラム
宮崎県 宮崎市立瓜生野小学校公演



2011年10月1日(土)
ふれあいマーケット
千葉県東金市 東金文化会館
小ホール公演

2011年12月17日(土)
障がい者招待
ふれあいコンサート
東京都台東区 東京文化会館
小ホール公演



10周年を迎えた「ふれあいトリオ」を継続協賛

今年10周年を迎えた「ふれあいトリオ」は、2003年に三井広報委員会の支援により開始され、2008年からは新日本空調を含む企業グループ(現在7社)の協賛により再スタート。

これまでに約340公演開催し、8万人以上の方々に参加戴きました。

「ふれあいトリオ」は、「音楽の感動宅急便! クラシック音楽を通じて豊かな心を育てよう。」をスローガンに、下記の3つのプログラムによって成り立っています。

①ふれあいプログラム

全国の学校・養護施設・医療施設等に出向き、子供たちの手の届く距離で名曲が演奏されます。

②ふれあいコンサート

「ふれあいプログラム」の開催地の

近隣ホールで行われる本格的なコンサートです。

③ふれあいマーケット

障がいのある方々が働く施設で作られた工芸品やお菓子などを、コンサート会場のロビーで販売する支援を行っています。

2011年度は全国10都市を訪問して19公演(コンサート:7回、プログラム:12回)を行い、公演後、生徒さん・先生をはじめ参加された方々から、お礼のハガキやお手紙を沢山戴きました。

尚、「ふれあいトリオ」の活動内容・記録・今後の予定等については、「ふれあいトリオ」のホームページ(<http://www.fureaitrio.com/>)をご覧ください。

●photo:岩切 等/写真提供:KTレーディング株式会社



2012年3月17日(土)
大阪市舞洲スポーツランドにて開催された「第5回三井ゴールデン・クラブ野球教室」



各選手が使用するクラブを模したトロフィーを持ち、笑顔の記念写真撮影

三井広報委員会(設立40周年)の活動に継続参加

新日本空調は三井グループの一員として、1991年から「三井広報委員会(メンバー会社:24社、特別参加会社:2社)」の活動に参加。

今年40周年を迎えた同委員会は、1972年に設立され、三井グループ各社がまとも、1企業では成し得ないようなスケールと内容の活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化に貢献するとともに、社会の繁栄と福祉に寄与することを行動理念としています。

同委員会では、様々な文化活動支援のほか、毎年プロ野球セ・パ両リーグの守備のベストナインに贈られ

る「三井ゴールデン・クラブ賞」をこれまでに40回提供しています。

また、2010年度からは、「三井ヒューマンプロジェクト」の一環として同賞受賞のOB選手4名とヘッドストレンクス&コンディショニングコーチの吉田直人氏を講師に招いて、少年野球の指導者を対象とした「三井ゴールデン・クラブ野球教室」を開催し、将来を担う子供たちが楽しんで野球に取り組める環境づくりをお手伝いしています。

なお、三井広報委員会の沿革・活動内容等については、同委員会のホームページ(<http://www.mitsuipr.com/>)をご覧ください。

●写真提供:三井広報委員会

福島県南相馬市の沿岸部で“震災復興ボランティア”

2012年2月、南相馬市社会福祉協議会を通じ、当社有志13名が福島県南相馬市で震災復興ボランティア活動を行いました。津波被害の激しい沿岸部における道路側溝の泥・瓦礫の撤去、個人宅の雑草刈りなどを行い、被災者の方から直接感

謝のお言葉と差し入れのお汁物を頂いた上、同協議会から感謝状を頂きました。震災から1年が経過しましたが、今後も激しい被害にあわれた地域の復興の一助になれるように、できる限りのお手伝いをしていく予定です。



地域に役立つ復興支援活動を今後も継続



側溝の清掃など地道な活動が地域の方々と協議会に認められました

思いでの“写真洗いボランティア”

2012年3月、東日本大震災による津波の被災地に集められた思い出の写真やアルバムを洗浄し返却するボランティア活動に参加しました。変色したもの、画像が壊れてしまったもの、数十枚がくっつき束になり固まってしまったもの、パズルのピースのように分解されてしまったもの、残念ですが復旧が難しいものなど色々な写真がありました。家族、結婚、誕生など大切な思

い出を画像を傷めぬよう一枚ずつ慎重に手作業で洗浄していきました。洗浄後、ミニアルバムにした写真は、“現地展示場で持ち主の方々の元に日々戻っている”、“現地から喜びの声も届いている”とスタッフの方から聞きました。今後もどんな小さな事でも行動し、現地の皆さんの心が温まる事を祈り続けようと感じました。



主催：練馬区(防災・安全)教育推進協議会「心のあかりを灯す会」

女川町で“フラッペの無料配布ボランティア”

2011年7月31日、東日本大震災で被災した皆さんに冷たくておいしいデザートをお届けしようと、フラッペを無料配布する東北三栄会主催のボランティア活動に参加

しました。当日は、社員や家族を含め総勢18名で午前は女川町の避難所2箇所、午後は石巻市沢田にある女川町被災者のための仮設住宅で配布活動を行いました。

これまでいろいろな炊き出しの無料提供はありましたが、デザートの配布はほとんどなく、子供からお年寄りの皆さんまで大変喜んで頂けました。震災や節電など生活面での不自由はつきませんが、皆さん前向きに過ごされている姿が印象的でした。僅かの時間ではありましたが、被災地の皆さんとお話させて頂き、大変有意義な一日でした。



避難所となっている女川勤労青少年センター前にて



少しでも被災地の皆さんの力になれたらとデザートを手渡し



2012年度 東北支部安全大会

●●● 事業部紹介 **東北支店**

東日本大震災を乗り越えて… 「ともに前へ！ 東北支店」



東北支店 事務所内

2011.3.11の大震災から1年以上が経過しました。東北地方は大きな被害に見舞われましたが、すでに震災復興が始まっています。「復興へ貢献する」をスローガンに、皆とともに前へ進みます。

■ 東北支店の紹介

東北支店は、宮城県仙台市に1974年（昭和49年）東北営業所として開設、1984年（昭和59年）に支店へと組織拡大し現在に至っています。北は青森県から南は福島県まで、東北6県

（南北距離約500km、国土面積の約18%）の広範囲に渡り、「小さなものから大きなものまで」数々の施工実績を築いてきました。

2011年度の施工実績は、780件（内、震災対応は191件）。官公庁

工事・リニューアル保守工事・産業空調工事の占める割合が多く、地域に密着したお客様対応を行っています。また震災復興に向け、原子力事業部（青森・福島）との地域連携も図っています。

2012年現在の職員数は62名であり、青森・秋田・岩手・山形・福島の各県に営業所を設置しています。



【芋煮会】

協力会行事として毎年開催。南東北地方に伝わる伝統行事。牛肉醤油味（山形風）と、豚肉味噌味（仙台風）があります。（写真は2010年10月。2011年は震災の影響で中止）



■ 営業所の特徴

【東北は広い…地域により、風俗・習慣・言葉等が大きく異なります】

- ・ **青森営業所** (六ヶ所村)：本州最北端の営業所。原子力事業部との地域連携を図る拠点営業所。
- ・ **秋田営業所** (秋田市)：現在大型病院を施工中。豪雪地帯。
- ・ **岩手営業所** (北上市)：北東北地域の復興を担う拠点営業所。本州で最も寒い県。
- ・ **東北支店** (仙台市)：東北6県を統括。緑美しい「杜の都」。
- ・ **山形庄内営業所** (酒田市)：数多くの保守工事に対応。豪雪地帯。
- ・ **郡山営業所** (郡山市)：南東北地域の復興を担い、原子力事業部との地域連携を図る拠点営業所。

支店・営業所の所在地、主な施工実績 (施工中を含む)



(株)デンソー東日本
東日本大震災を乗り越え2011年6月竣工
【福島県田村市】



由利本荘市文化交流館「カダーレ」
東日本大震災の影響により工期延長、2011年11月竣工
【秋田県由利本荘市】

2011年3月16日
(震災5日後)
緊急支援物資の到着!



【復興工事】岩手県田野畑村
(三陸海岸) ホテル羅賀荘は
津波により4階まで完全水没
(今年当社で復興工事を施工)



*なお、2011.3.11震災関連対応についてはP6~7をご参照ください。

Voice

地に足をつけた事業活動を

東北支店の歴史は、昭和49年東北営業所の開設から始まります。支店への昇格改組は10年後の昭和59年。私自身東北へ転勤して来たのがこの年でした。当時は公共事業に頼った受注戦略を取っていましたが、バブル崩壊と共に立ち行かなくなり、大きく舵を切る事になります。キーワードで言うと、新築・大型・空調工事から、リニューアル・小型保守・衛生工事への展開です。以降コツコツと技術的研鑽を積み重ね、優秀な人材の確保・育成を続けながら良い結果を残してきたと思います。これからの東北地方は長期間にわたり、復興需要を中心とした経済活動が続くと思われます。これからも私達はどっしりと、地に足をつけた事業活動を続けていきます。



執行役員 支店長
三橋 渡

社外ステークホルダー・インタビュー

多種多様な空調工事を施工したノウハウから 高い安全性の提供を新日本空調に期待



充実した舞台設備だけでなく、バリアフリー化も考慮されている人に優しい劇場

株式会社明治座

三田 芳裕 社長

今回は、株式会社明治座の三田社長に同社の沿革、現在の活動と未来並びに新日本空調の感想などについて語っていただきました。明治座の事業内容、公演予定など詳細情報については同社のホームページを参照してください。

HP <http://www.meijiza.co.jp/>

江戸の大衆文化の殿堂を守り抜いた140年

2012年、明治座は140周年を迎えます。

明治、大正、昭和と、芝居小屋と呼ばれる頃から今日の「明治座」まで、幾度とない災難による焼失を経験。それはまさに火事との戦いとも呼べる壮絶な歴史です。

1873年(明治6年)、その芝居小屋は「喜昇座」として開場します。当時、東京府々令により歌舞伎三座(中村座、市村座、守田座)以外での興行ができませんでしたが、この「喜昇座」で許可がおり上演できるようになります。それから「久松座」に名を改め盛大に開場されました。しかし開場の翌年、火事で消失します。1885年(明治18年)「千歳座」と改称し新築開場。しかし運悪く1890年(明治23年)また焼失。1893年(明治26年)当時の洋館「明治座」が完成し、「明治座」の歴史が始まるのですが、関東大震災、第二次世界大戦における東京大空襲でも焼失してしまうのです。幾たびもの火災、戦禍をくぐり抜け、現在の浜町センタービル「明治座」に至るのです。そして、縁あってここ浜町センタービルに新日本空調の本社は入居しています。

復興、そして現代の明治座へ

現在の「明治座」三田社長にこれまでの歴史と現代の明治座について伺いました。「悲劇に見舞われるとその都度、救世主が現れました。明治、大正、戦時中、様々な方

ちにご支援をいただき再建できたのです」とのこと。

なお現在の呼び名「明治座」となったのは1893年(明治26年)初代市川佐團次さんが興行主と座長を兼務の頃。

1917年(大正6年)から第二次大戦後まで松竹が経営。戦後、焼け野原からの「明治座」の再建は地元の有志の方々が行い、途中から先代の社長が中核的仕事を受け継ぎ、1950年(昭和25年)戦後の「明治座」が再開場します。が、1957年(昭和32年)春、また火事に見舞われ、一年かかって1958年(昭和33年)3月3日、再々開場します。「建設会社から“大事に育てた大事な娘(劇場)を、おたくに嫁がせるのだからいつまでも大事にきれいに守ってくれ”と言われたそうです。当時の社長、亡くなった父が“非常に心にしみた”と先代の言葉をかみしめながらお話しいただきました。

料理人修行の経験を持つ三田社長

料理屋「濱田家」の近くの人形町に実家があり、生まれも育ちも日本橋。小さい頃はデパートで買い物。学生時代は友人たちの音楽を聴き、好きな絵を描いて過ごしました。「子供の頃よく母親に連れられ芝居を見に行きました。綺羅星のごとくいらしゃった作家、脚本家の方々そして、それを演じる名優の舞台を観た記憶は財産です」

大学卒業後は男兄弟はひとりだけのいわゆる跡取り息子だったために、関西の料理屋さんで“調理人”として丸3

年修行。「先方の先代のご主人に“料理屋の主人はこういうものだ”というものを見せていただきました」（三田社長談）その修行経験をしたのち、実家の「濱田家」に戻るも、しばらくして今度は「明治座」を手伝うこととなりました。

歌舞伎から現代劇

1950年代までの明治座の主たる演目は、歌舞伎、新派、新国劇。その後、東宝、東映などと提携し新しい芝居・出し物が上演されるようになりました。「歌手で初めて明治座に出演されたのは1966年（昭和41年）秋の美空ひばりさんでした。東宝との提携で、森繁久彌さん。東映では市川歌右衛門さん、片岡千恵蔵さん。映画のスーパースターが生舞台で見られるのですごい人気でした」以降、新しい世界への挑戦の場として「明治座」は存在しました。歌舞伎においても、市川猿之助さんが過去の歌舞伎、途絶えていた演目を復活させて上演。「それは、『歌舞伎座』でもない、『新橋演舞場』でもない、『明治座』で上演していただけたのです。これからの『明治座』は、時代は変わりますが“明治座に合った歌舞伎”を継続して上演していこうと思っているのです」

現在の「明治座」になってから三代目の社長に就任し10年。三田社長は、「先代がよく言っていた『お客様に親切な小屋でなければいけない』ということを中心にしています。そして、明治座の観劇スタイルは、江戸時代からの観劇文化“観劇と食事”、そして“お買い物”を加えたこのスタイルを大事にしていきたい。戦後に早々と劇場が復活したのは、不要不急のように見えても庶民にとっては必要だったという証。社員にも“不要不急のものだと言っても、人の人生には必要不可欠のもの”と言っています」と優しい目でおっしゃり、さらに「いつまでもお客様の心に残る芝居をお見せする。料理屋『濱田家』でお食事されたお客様に、『あのときの料理はおいしかったね』と記憶に残る料理を提供するよう心がけています。料理を提供する仕事は“人の心を満たす仕事”として

「お客様に親切な小屋」を
心がけるとともに、
明治座に相応しい演劇と食文化を
提供し続けていきたい。

これからも取り組んでいこうと思っています。演劇も食事も形に残らないもの。だからこそお客様の“心”に残るような演劇と料理を提供していきたい。それが私どもの使命」と力強く語られました。

常により高い快適性、安全そして信頼を提供する使命

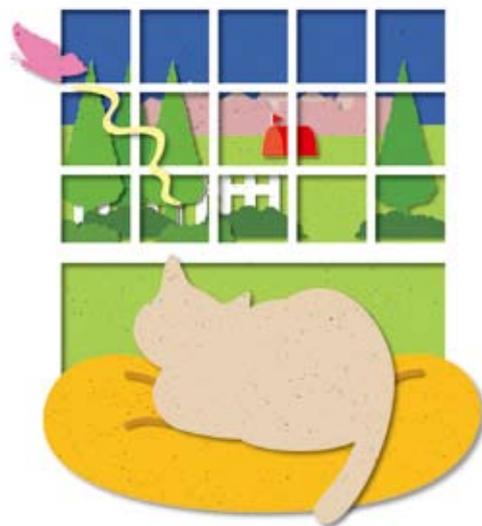
2009年に完成した弁当工場の施工に際して三田社長は、「浜町センタービルに入居している“大事なお客様”で、空調のパイオニアであり、長い歴史を持つ業界の“雄”である新日本空調様に空調工事の施工をお願いしたいと思いました。食品工場ですので、衛生的安全度を高めた施設にしたい。そのために、御社がこれまでの長い歴史の中で培われたノウハウを使っていただきたい。また、明治座としましても、東京都のCO₂排出の対応や、省エネという課題に対して、これまでに培われた経験やノウハウ、お知恵をお借りしたいので協力をさせていただきたい。より快適な空間で、お客様に観劇していただけることが必要で、より高い快適性を提供するという使命を持って劇場運営を行いますのでご提言をお願いします」と要望をいただき、そのご信頼にお応えできました。今後も相互の信頼関係をより深め、環境設備企業としてソリューションを提供してまいります。



PROFILE

慶應義塾大学卒業後、家業の「玄治店 濱田家」へ。
1991年、明治座の非常勤取締役任に。
その後、常務、専務、副社長を歴任。
2002年、代表取締役社長に就任。
玄治店 濱田家の代表取締役も兼任。





人と空気と環境と

 **新日本空調株式会社**

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号 浜町センタービル

TEL.03-3639-2700

<http://www.snk.co.jp>

